

# 弘前大学学報



北東北3大学3銀行による協定締結

第 148 号  
平成28年7月号

---

# 目 次

---

## 学内ニュース

○平成 28 年度弘前大学起業家塾（第 2 回目）を開催	1
○「むつサテライトキャンパス」開講式開催	2
○「Red Bull ブレイクダンス世界大会国内予選」開催	3
○第 7 回弘前大学出版会賞表彰式を挙	4
○弘前大学卒業生による「日本語パートナーズ」報告会を実施	5
○特別講演会「我が国の科学技術イノベーション政策について」を開催	6
○北東北 3 大学 3 銀行による協定書の締結（地域 TLO ネットビックスプラス）	7
○平成 28 年度弘前大学起業家塾（第 3 回目）を開催	8
○「弘前大学基金贈呈式」を行いました	9
○「青森地域 COC 推進協議会」を開催	10
○株式会社日本政策金融公庫との連携協定を締結	11
○常盤高等教育局長らが弘前大学を視察	12
○平成 28 年度「科学者発見プロジェクト」テーマ賞表彰式 及び第 8 回共同研究体験発表会を開催	13

諸 会 議	14
-------	----

## 人 事

○人事異動	17
-------	----

主要日誌	19
------	----

学内規則	20
------	----

---

## 平成 28 年度弘前大学起業家塾（第 2 回目）を開催

平成 28 年 7 月 1 日（金）、弘前大学総合教育棟 4 階 406 講義室において、「弘前大学起業家塾 第 2 回目」を開催しました。

本起業家塾では、レンタルラボ等のインフラを活用し、学生や研究者を対象に、実際の起業家等による講演及びワークショップを中心とした起業家育成プログラムを実施することで、起業への意識醸成を図り、起業（VB）の促進、研究シーズ等を活用した起業家の育成及びイノベーションの創出を目指します。今年度は、第 1 回目から第 3 回目までは講演及びワークショップ形式での開催となっており、ワークショップでは参加者がグループを組んで演習を行ってまいります。

今回の講演及びワークショップは、東京大学 産学協創推進本部 助教 菅原岳人 講師を招き「事業設計・ビジネスモデルのワークショップ」と題し、ビジネスモデル、事業設計の基礎を発想法の一つでもあるマンダラートや Lean Canvas（リーンキャンバス）を用いた演習や、起業の不都合な真実（Startup），最小限のビジネスモデルを構築し何度も仮説検証することの重要性などを解説していただきました。

当日は学生、教員、企業関係者など 32 名が受講し、講演中及び講演後も塾生から菅原講師に多数の質問が寄せられるなど熱心な意見交換が行われました。



東京大学 助教 菅原岳人 講師による講演



ワークショップの様子

## 「むつサテライトキャンパス」開講式開催

弘前大学は、平成 28 年 7 月 2 日（土）に、むつ市立図書館視聴覚ホールにて、昨年 10 月 6 日に学校法人青森田中学園青森中央学院大学と共同で設置した「むつサテライトキャンパス」の開講式を開催しました。本サテライトキャンパスは、高等教育機関がない下北地域において、むつ市を中心に学生の滞在型学習、大学講義レベルの公開講座・講演会等の実施、大学の各種広報活動、その他地域の活性化に資する事業を実施することにより、賑わいの創出とともに、地方創生や人材育成等に貢献することを目的としています。なお、むつ市役所内にその機能を持たせ、むつ市内の建物において公開講座等を行うことにより、設備投資を削減し、既存の建物の利活用を図るといった他のサテライトキャンパスにはない特徴があります。

開講式にあたって、むつサテライトキャンパス所長である大河原隆 弘前大学理事から、「地域共同型の一つのモデルであり、地域の皆様のご支援をいただきながら充実させていきたい」旨の挨拶がありました。続いて、佐藤敬 弘前大学長から、「地方の国立大学の役割を一層果たし、常に発展したサテライトキャンパスの姿を見せたい」旨の祝辞がありました。次いで、花田勝美 青森中央学院大学長から、「宮下むつ市長の熱い思いを感じた。愛情のある高等教育の場を作りたい」旨の祝辞がありました。次いで、宮下宗一郎 むつ市長から、「この日を迎えることに感無量である。本日は歴史的 1 日であり、教育創生元年と位置付け広く教育の機会を設けていく。全国では大学のないエリアの方が多く、この取組が全国に発信できる『むつモデル』として、地域活性化の大きな軸になっていくと考えている」旨の祝辞がありました。また、受講生の代表として、田名部高等学校 3 学年 齊藤愛理さんから、「下北地域には高等教育機関がなく、豊かな環境に恵まれている地元から人口が減ってしまうことに問題意識を持っている。大学がないむつ市で講義を受講できることに感謝しており、人口構造や財政の仕組みを学び、その対策を考える力を養いたい」旨の挨拶がありました。

開講式閉会後は、本年 5 月に日本考古学協会賞大賞を受賞した、弘前大学人文社会科学部 関根達人 教授による記念講演会「本州アイヌと地域社会」が開催され、参加者は和人とアイヌが共生する「他民族藩」の歴史・文化についての講演に聴き入っていました。



開講したむつサテライトキャンパス



## 「Red Bull ブレイクダンス世界大会国内予選」開催

弘前大学では、平成 28 年 7 月 2 日（土）に、弘前大学創立 50 周年記念会館みちのくホールにて、ブレイクダンスの世界大会の国内最終予選の一つである「Red Bull BC One Hirosaki Cypher」が開催されました。「Red Bull BC One」は、世界最大手のエネルギー飲料会社「Red Bull」が 2004 年から主催している世界最高峰のブレイクダンス大会で、世界中のブレイクダンサーが注目する大会です。なお、本大会は、弘前市内にあるストリートダンスの指導やイベントの企画・運営を行っている「Street Dance Studio FUNKY STADIUM」の岩渕伸雄 代表（弘前大学農学生命科学部卒業）のアテンドがあり実現したものであり、また、弘前市が実施している「HIROSAKI DESIGN WEEK」の連携事業「ダンス&パフォーマンスフェスティバル 2016」の一環としても開催され、大学を会場にした初の大会となり、大学、自治体、企業・卒業生それぞれの特徴を活かしたイベントとなりました。

開催にあたり、堀内元博 学長特別補佐から、「弘前大学のモットーである『世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学』と合致しており、過去の大会では例がない大学での世界大会国内最終予選を本学で開催することとなり大変喜ばしく思う。怪我のないよう健闘を祈りたい」との挨拶がありました。

本大会では、北海道から九州まで日本全国から 139 人の選手が弘前大学に集結し、重力を感じさせないほどの躍動感溢れる技を競い合い、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮していました。また、学生や家族連れなどの地域住民 428 人の観客が会場を埋め尽くし、選手から力強いパフォーマンスが披露されると拍手や歓声を上げて大会を盛り上げました。優勝を決める選抜トーナメント 16 枠には弘前市を含む青森県勢 4 人が進出し、優勝者は群馬県から出場したダンスインストラクターの岡田修平選手（ダンサー名：Shade）に決まり、12 月に名古屋で開催される、世界 40 か国の代表が集うワールドファイナル出場を懸けて争う世界最終予選の出場権を勝ち取りました。



ダンス会場と化する弘前大学創立 50 周年記念会館



ムーヴを決める選手

## 第7回弘前大学出版会賞表彰式を挙

弘前大学出版会では、平成25年1月から平成27年12月までに同出版会から刊行された21作品の中から、優れた作品を選定し「第7回弘前大学出版会賞」として表彰を行いました。受賞作品には、人文社会科学部 黄孝春 教授と平本和博氏の共著『りんごをアップルとは呼ばせないー津軽りんご人たちが語る日本農業の底力ー』が選ばれました。本書は、多彩な青森のりんご産業関係者への3年半にわたる丹念な取材・調査をもとに、多方面から検討を行って執筆されており、調査研究の成果が地域社会に生かされる事例としても意義が大きいものです。学術的厳密性を保つ記述スタイルでありながらも、一般的読者への配慮を忘れることなく、専門家以外の読者にも読み物として楽しめるように工夫されており、地域の書店週間ベストセラー等、地域の反響が大きかった作品でもあります。

7月4日、弘前大学において表彰式が行われ、佐藤敬 学長をはじめ、学内外の関係者が列席した。受賞者には、足達薫 編集長から記念のガラス製表彰楯が贈られました。受賞作は、各誌に書評等が掲載されたほか、図書館協会選定図書にも選定され、全国に本学の研究成果を広く発信しました。りんごに関する総合研究力を有する本学にとって、地域に根ざした大学として取り組みの一端を内外に示した作品です。

平成16年に学内組織として設立された同出版会は、大学教員の研究成果をはじめ、教養書、教科書、地域の特色や文化の紹介など活発な出版活動を行っています。6月末時点での累計出版数は182点となり、さらなる事業の普及・振興に努めます。



表彰式の様子



表彰式列席者による記念撮影

---

## 弘前大学卒業生による「日本語パートナーズ」報告会を実施

平成 28 年 7 月 7 日（木）17：45 から、総合教育棟 205 講義室で、「日本語パートナーズ」の報告会が行われました。

「日本語パートナーズ」とは、「日本語で、日本を伝える、アジアを学ぶ。」というキーワードを掲げ、ASEAN 諸国の中学・高校などの日本語教師や日本語を学ぶ生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行うというもので、国際交流基金アジアセンターが行っている事業の一つです。満 20 歳～69 歳で日本国籍があれば、だれでも参加資格があります。

今回の報告会は、在学中に実際にこの事業に参加した経験を持ち、昨年春、本学人文学部を卒業し本制度でタイに派遣された奈良美智子さんの発案により、国際教育センターが主催して行われました。

奈良さんは、日本語パートナーズは資金面、生活面、学習面すべてにおいてサポートが充実していること、日本語を教えることだけではなく、身近な日本文化を自分自身が知ることから始まり、海外で得られた数々の貴重な体験を後輩たちに伝えていきたいという強い思いを豊富な資料を基に話されました。

報告に続く質疑応答では、現地での生活に関する事、派遣前や現地でのサポート体制に関する事、現地でのコミュニケーション言語に関する事等様々な質問が飛び、時間を延長して懇談が続きました。報告会に来ていた学生たちは、この事業はもとより様々な形での海外体験や留学への思いをかきたてられているようでした。



報告会場の様子

---

## 特別講演会「我が国の科学技術イノベーション政策について」を開催

平成 28 年 7 月 8 日(金), 弘前大学では内閣府総合科学技術・イノベーション会議の原山優子議員を講師に招き, 「我が国の科学技術イノベーション政策について」と題し, 本学教職員を対象とした特別講演会を弘前大学創立 60 周年記念会館コラボ弘大八甲田ホールにて開催しました。

本講演会は, 内閣府総合科学技術・イノベーション会議の常勤議員として日本の科学技術政策の推進のためご活躍されておられる原山議員より, 科学技術政策の現状と今後の動向についてお話しいただき, 本学教職員の見識を深めるとともに第 3 期中期目標期間の教育研究活動のさらなる発展につなげることを目的に行ったもので, 学内教職員約 70 名が出席しました。

講演では, 我々の日常生活と科学技術との関連の中でスマートフォンのような技術が 10 年間のうちに多くの人々にとって不可欠なものとなる“大変革時代”の現代において, 新たな価値を創り社会を変革させるために何がカギとなるかという政策の土台となる考え方について説明が行われました。さらに, 今後 5 年間の科学技術イノベーション推進の基本計画として政府が策定した「第 5 期科学技術基本計画」の概要等について解説がありました。最後に原山議員は, 大学は科学技術イノベーション推進における重要なステークホルダーであることを強調されるとともに, 大学に対する期待として, 独自の目標や強みを主張すること, 学生に学習や体験, チャレンジの機会を大いに与え大学の新しいモデルを提唱することを提言され, 講演を結ばれました。

講演後には質疑応答が行われ, 終了予定時刻を超えるほどの盛会となりました。



講演される原山優子議員



講演会場の様子



## 北東北3大学3銀行による協定書の締結 (地域TLO ネットビックスプラス)

弘前大学(学長 佐藤 敬), 秋田大学(学長 山本文雄), 岩手大学(学長 岩渕 明), 青森銀行(頭取 成田 晋), 秋田銀行(頭取 湊屋隆夫), 岩手銀行(頭取 田口幸雄)の6者は, 地方創生の取組みとして, 大学の持つ新技術を地域の中小企業と連携して活用するための新しい提携事業として「ネットビックスプラス」を立上げ, 下記のとおり協定書を締結しました。

### 1. 協定の目的

6者は, 3銀行のネットワークを活用し, 3大学の研究成果等を地域社会に還元することによって産学金連携を推進し, 産業の活性化および地方創生を実現することで地域の企業等および地域社会の発展に寄与するため, 相互に協力することを目的とする。

### 2. 提携協力事項

- (1) 3大学の保有する知的財産等, 研究成果等情報の地域企業への提供
- (2) 3銀行の顧客企業が保有する技術的ニーズの共有と6者連携による解決スキームの提供
- (3) 北東北3県の地域企業の新産業創出を目指した, 産業振興および地方創生への支援
- (4) その他, 目的を達成するために必要な事項

### 3. 締結日

平成28年7月14日(木)

※同日, 秋田大学において, 調印式を開催しました。



佐藤敬弘前大学長(右から2番目)

## 平成 28 年度弘前大学起業家塾（第 3 回目）を開催

平成 28 年 7 月 14 日（木）、弘前大学総合教育棟 2 階大会議室において、「弘前大学起業家塾第 3 回目」を開催しました。

本起業家塾では、レンタルラボ等のインフラを活用し、学生や研究者を対象に、実際の起業家等による講演及びワークショップを中心とした起業家育成プログラムを実施することで、起業への意識醸成を図り、起業（VB）の促進、研究シーズ等を活用した起業家の育成及びイノベーションの創出を目指します。今年度は、第 1 回目から第 3 回目までは講演及びワークショップ形式での開催となっており、ワークショップでは参加者がグループを組んで演習を行ってまいります。

今回の講演は、株式会社ウェザーコック 専務取締役 山本一枝 講師を招き「産学官連携を活用した、レジリエンスを高める経営」と題し、「使い果たし方ベンチャー」にならないためのコツ、産学連携を通じ、異分野を知ること、困難に直面した際に自分がすべき仕事をこなし前に進む事に集中する重要性などを解説していただきました。

また、ワークショップでは日本政策金融公庫 松重有祐 講師を招き「資金調達の方法と資金計画の考え方」と題し、資金計画の作成方法、事業計画の作成、ラーメン店の開業を仮想とした資金計画、収支計画を完成させるワークショップを行っていただきました。

当日は学生、教員、企業関係者など 41 名が受講し、講演中及び講演後も塾生から講師に多数の質問が寄せられるなど、熱心な意見交換が行われました。



株式会社ウェザーコック  
専務取締役 山本一枝 講師



日本政策金融公庫 松重有祐 講師  
によるワークショップの様子

## 「弘前大学基金贈呈式」を行いました

弘前大学基金は、本学の財政基盤の充実強化を図り、学生支援、教育研究活動等の一層の充実を図ることを目的に、昨年7月に創設いたしました。弘前大学は、本基金を有効に活用し、地域を志向した大学改革を進め、地域活性化の中核的拠点としての本学の姿を確固たるものとし、イノベーション創出と人材育成を通じて地域社会への還元を目指しております。

このたび、本基金の趣旨に御賛同いただきました、青森トヨペット株式会社様から金1,000万円の御寄附を頂くこととなり、平成28年7月15日（金）、贈呈式を執り行いました。

### 出席者

- 大野 清隆 様（青森トヨペット株式会社 代表取締役会長）
- 大野 亮 様（青森トヨペット株式会社 代表取締役社長）
- 高嶋 賢治 様（青森トヨペット株式会社 常務取締役）
- 佐藤 敬 （弘前大学 学長）
- 加藤 健 （弘前大学 理事（総務担当）・副学長・事務局長）
- 堀内 元博 （弘前大学 学長特別補佐）



左から、弘前大学 堀内学長特別補佐、加藤理事、佐藤学長、  
青森トヨペット株式会社 大野代表取締役社長、大野代表取締役会長、高嶋常務取締役

## 「青森地域 COC 推進協議会」を開催

平成 28 年 7 月 20 日（水）、「青森地域 COC 推進協議会」を開催し、佐藤学長ら 14 名が出席しました。

平成 26 年 11 月に設立された同協議会は、平成 26 年度に本学が文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に関する提言と評価を行うため、学長を会長とし、理事、青森県知事、弘前市長、青森県内の企業関係団体の長及び NPO 法人関係者によって構成されています。

平成 27 年 7 月の開催に続き 3 回目となった今回の協議会では、平成 27 年度実施状況と平成 28 年度年度計画、平成 27 年 10 月に行われた外部評価委員会の報告等について、企画・教育・研究・社会連携の各担当理事が説明を行いました。

教育面では、平成 28 年度より実施されている新しい教養教育の概要や「地域特定プロジェクト志向専門人材育成プログラム」の開発・試行、研究面では、「青森ブランド価値創造研究」や「起業家育成事業」の実施、社会貢献面では、「白神自然環境人材育成講座」や「グローバル人材育成事業」の実施等が説明された後、各委員による意見交換が行われました。



佐藤学長



協議会中の様子



## 株式会社日本政策金融公庫との連携協定を締結

本学は平成 28 年 7 月 21 日（木）に弘前商工会議所において、相互の密接な連携協力により、研究、創業、事業再生、海外展開、農商工連携等に関する知見など、両者が有するネットワークを活用し情報交換を行い、地域社会の活性化を推進し、地方創生に貢献することを目的として、株式会社日本政策金融公庫との連携協定を締結しました。

調印にあたって、市川聖司 青森支店長から、「研究・教育・産学連携で地域の発展に大きく貢献している弘前大学と連携の体制が取れたことを大変心強く思う。今後、企業ニーズを掘り起こし、産学官金の連携による有機的活性化により、イノベーションの創出及び地域活性化に貢献していきたい。」と挨拶がありました。

引き続き、佐藤敬 弘前大学長から、「全国規模の情報やノウハウを有している株式会社日本政策金融公庫と連携協定を結べたことは、地方創生、地域活性化の取り組みにとって大きな力になると考えている。」と挨拶がありました。

また、来賓として出席いただいた永澤弘夫 弘前商工会議所 会頭から、「青森県において弘前大学は頭脳であり心臓である。日本政策金融公庫などの金融機関は血液であり、商工会議所は身体の組織である。お互いに協力できることは、何の障害もなく協力できることが本当の連携であり、少子高齢化・過疎化という地域の課題に一丸となって取り組める素晴らしい協定である。」との祝辞がありました。

締結式には、株式会社日本政策金融公庫から、長尾能邦 弘前支店長、中村貴修 八戸支店長、朝広純一 青森支店 国民生活事業統轄、今野公司 青森支店 農林水産事業統轄が、弘前大学からは、大河原隆 社会連携担当理事、今井正浩 人文社会科学部長、亀谷禎清 研究推進部長、小山宏 社会連携部長が同席しました。



全体記念撮影（中央右 佐藤学長，中央左 市川青森支店長）

## 常盤高等教育局長らが弘前大学を視察

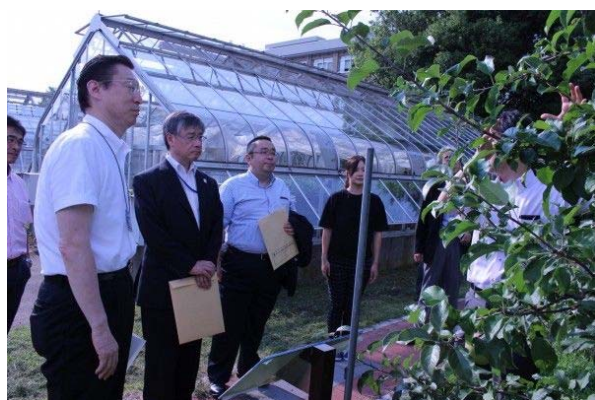
文部科学省の常盤豊 高等教育局長と佐藤昭博 国立大学法人支援課 課長補佐が平成 28 年 7 月 29 日（金）、本学を視察しました。

常盤局長は、佐藤学長による大学概要に関する説明を受けた後、青森県の産業構造を踏まえた本学の様々な取組について意見交換を行い、その後、農学生命科学部、医学部附属病院及び医学研究科の順に視察しました。

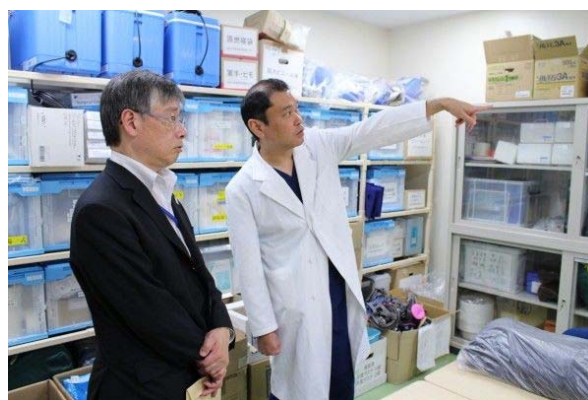
農学生命科学部では、松崎正敏 副学部長から本年 4 月の学部改組の特色について、前多隼人 助教から赤い果肉のリンゴ「紅の夢」を中心とした食による地域活性化の取組について説明を受け、リンゴ見本園にて同学部が研究を行う様々な種類のリンゴの樹を視察しました。

医学部附属病院では、福田眞作 病院長より病院の概要説明を受けた後、高度救命救急センターの視察を行いました。同センターは、原子力規制委員会から原子力災害に対応する総合的な医療施設としても指定されており、山村仁 センター長から、災害発生時の緊急対応や被ばく患者受入時の流れなどについて説明を受けるとともに、DMAT 装備や被ばく関連設備などを視察しました。

医学研究科では、若林孝一 医学研究科長から挨拶の後、弘前大学が研究を進める特色ある研究として、柏倉幾郎 副学長より「革命的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」について、中根明夫 教授より「地域イノベーション戦略支援プログラム (プロテオグリカン)」についてそれぞれ説明を受け、青森県が抱える短命県の課題の克服や産業界との連携の在り方などについて、研究者や大学院生と活発に意見交換を行いました。



リンゴ見本園にてリンゴの樹を視察する  
常盤高等教育局長（左から 2 番目）



山村高度救命救急センター長<sup>㊦</sup>より、救急医療のための資機材について説明を受ける常盤高等教育局長<sup>㊦</sup>

平成 28 年度「科学者発見プロジェクト」テーマ賞表彰式  
及び第 8 回共同研究体験発表会を開催

平成 28 年 7 月 29 日（金）、ヒロロ 3 階ヒロロスクエアイベントスペースにおいて、平成 28 年度「科学者発見プロジェクト」テーマ賞の表彰式を開催しました。本事業は、日常のささいな「疑問や興味、アイデア等」を青森県内の小・中・高の児童・生徒から広く募集し、その提案に基づいた研究テーマを本学研究者と共に体験する双方向的な試みであり、本学の地域貢献の一環として平成 20 年度より実施しています。

応募された中から、発展性、意外性、独創性に優れた研究テーマを選考し、弘前大学教育学部附属小学校 6 年 神 乙葉さんの「老化を防ぐには～老化に関する 5 つの疑問～」をはじめ、9 件（小学校 2 件、中学校 5 件、高校 2 件）が「テーマ賞」に採択されました。

表彰式では、佐藤学長から表彰状が授与された後、来賓でご列席頂いた文部科学省・常盤教育局長より、弘前大学の地域に向けた本事業の取り組みへのお褒めの言葉を頂き、また、テーマ賞受賞者には、「今回の受賞テーマには『自然現象のしくみや疑問の解明』と『医学・環境・エネルギー等の社会的問題の解決』という科学研究における二つのアプローチが既に含まれており、第一線の研究者と変わらない研究テーマを目指している。ぜひ、弘前大学の研究者との共同研究をとおして、突き詰めて素晴らしい結果を出すように頑張ってください」と激励のお言葉を頂きました。研究テーマ毎に本学教員からいただいた激励のコメントが紹介され、今年は平成 23 年度テーマ賞受賞者で、当時高校生だった山内 舞子さんからもテーマ賞に選ばれた学生さんへ向けて、共同研究することで得られた体験を踏まえた応援メッセージをいただきました。そして、学校関係者及び保護者などが見守るなか、受賞者を代表して、青森県立名久井農業高等学校 2 年 古川 恵梨さんが、受賞へのお礼の言葉と今後の共同研究に対し、「地域にある土壌資源を活用した環境に安全な土作りの研究ができれば」と意気込みを語りました。

引き続き、第 8 回共同研究体験発表会が行われ、郡理事（研究担当）の挨拶の後、昨年度共同研究を実施した「2 つの目で見ていのになぜ 1 つに見えるのか」（弘前市立 北小学校）等 5 件の研究成果の発表が行われました。その充実した発表内容は未来の科学者を期待させるものであり、共同研究体験を通じて「関心を探求するプロセス」を研究者と共に体験することで、大学をより身近に感じてもらうよい機会となりました。



挨拶する常盤高等教育局長



佐藤学長から表彰を受ける小学生

---

## 諸会議

### ▼役員会

7月4日（月）

#### 審議事項

1. 職員の懲戒等について
2. 平成29年度概算要求について
3. 履修証明制度について
4. 教員免許状更新講習支援室の再編について
5. 弘前大学組換えDNA実験安全管理規程の一部改正等について

#### 報告事項

1. 新研究科の構想案について
2. 新たな組織評価制度について
3. 新たな組織評価制度について
4. 平成28事業年度会計監査人の選任について
5. 平成27事業年度財務諸表の承認について
6. 100円朝食の提供について
7. 平成28年度弘前大学科研費獲得支援事業の決定について
8. 平成28年度弘前大学国内研究員派遣候補者について
9. 平成28年度弘前大学「科学者発見プロジェクト」テーマ賞について
10. 平成28年度科研費不採択結果の情報提供の依頼について
11. 平成28年度国立大学法人等最高情報セキュリティ責任者会議について
12. 第7回弘前大学出版会賞について

7月25日（月）

#### 審議事項

1. 弘前大学放射線安全機構規程等の一部改正について
2. 平成29年度概算要求について
3. 弘前大学における「三つの方針（案）」について
4. 「弘前大学における英語力向上に向けたプロジェクト」教員の再任について
5. 競争的資金獲得向上対策費について

#### 報告事項

1. 中国における「弘前」商標登録について
2. 平成28年度弘前大学機関研究について
3. 平成28年度弘前大学若手・新任研究者支援事業の採択結果について
4. 平成28年度「青森ブランド価値創造研究」の審査結果について
5. 平成28年度弘前大学学術特別賞の公募について



- 
6. 北東北3大学3銀行提携による地域版TLO「ネットビックスプラス」について
  7. 弘前市女性活躍推進異業種交流会への参加について
  8. 国立大学図書館協会ビジョン2020について
  9. 第12回弘前大学資料館企画展開催について

#### ▼教育研究評議会

7月12日（月）

##### 審議事項

1. 履修証明制度について
2. 教員免許状更新講習支援室の再編について
3. 弘前大学組換えDNA実験安全管理規程の一部改正等について

##### 報告事項

1. 教員の採用等について
2. 教育研究院の英語表記について（確定）
3. オープンキャンパスの実施協力について
4. 平成28年度弘前大学科研費獲得支援事業の決定について
5. 平成28年度弘前大学国内研究員派遣候補者について
6. 平成28年度弘前大学「科学者発見プロジェクト」テーマ賞について
7. 平成28年度科研費不採択結果の情報提供の依頼について
8. 弘前大学と平川市との連携に関する協定の締結について
9. 四川大学化学工学院との連携協定の締結及び連携協定の更新について
10. 輻射防護研究所（中華人民共和国）との協定締結について
11. チェンマイ大学保健医療学部(タイ王国)との協定締結について（2016年5月24日）
12. 東南圏原子力医学院（大韓民国）との協定締結について（2016年6月14日）
13. 第7回弘前大学出版会賞について
14. 委員会等報告
  - (1) 教育委員会報告（6月29日開催分）
  - (2) 教育推進機構会議報告（6月10日開催分）
  - (3) 教員免許状更新講習支援室運営委員会・教員免許状更新講習実施委員会合同会議報告（6月1日開催分）

#### ▼教育委員会

7月27日（水）

##### 審議事項

1. 弘前大学におけるGPAの現状について
2. 弘前大学における再入学について

---

3. 卓越した学生に対する授業料免除について

4. 弘前大学大学院振興基金の選考について

報告事項

1. 平成 28 年度東北地区大学体育大会の結果について

2. 課外活動団体の結成について

# 人 事 異 動

## [採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年07月01日		松田 貴意	講師 (COI研究推進機構) [H30.3.31まで]
H28年07月01日		境 雄大	助教 (医学系 (臨床医学領域) / 医学部附属病院専任担当) [H33.6.30まで]
H28年07月01日		毛内 奈津姫	助手 (医学系 (臨床医学領域) / 医学部附属病院専任担当) [H33.6.30まで]
H28年07月01日		前田 和志	理学療法士 (病院・医技)
H28年07月11日		宮川 咲	栄養士 (教育・附小) [H28.7.31まで]
H28年07月16日		下山 佳菜絵	看護師 (病院・看護)

## [昇任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年07月01日	助教 (医学系 (臨床医学領域) / 医学部附属病院専任担当)	近藤 慎浩	講師 (医学系 (臨床医学領域) / 大学院医学研究科専任担当) [H35.6.30まで]

## [配置換え]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年07月01日	企画調整役 (学長室)	齊藤 明久	企画調整役 (学長戦略室)
H28年07月01日	専門員 (学長室)	工藤 公樹	専門員 (学長戦略室)
H28年07月01日	事務職員 (学長室)	高木 亜沙未	事務職員 (学長戦略室)
H28年07月20日	係長 (学務・学生)	鈴木 登紀子	係長 (病院・経調)
H28年07月20日	主任 (総務・総務)	工藤 かおり	主任 (学務・学生)

## [命]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年07月01日	教授 (医学系 (基礎医学領域) / 大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設専任担当)	今泉 忠淳	附属図書館医学部分館長 [H30.6.30まで]

## [休業]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年07月01日	事務職員 (理工)	福士 佳奈子	職務復帰
H28年07月16日	助手 (医学系 (臨床医学領域) / 医学部附属病院専任担当)	大石 舞香	育児休業開始 [H28.12.31まで]
H28年07月20日	係長 (学務・学生)	工藤 理砂子	職務復帰
H28年07月31日	主任 (学務・教務)	成田 麻依	育児休業開始 [H29.6.30まで]

[休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年07月01日	主任(附属図書館)	熊谷 千賀子	期間延長 [H28.9.30まで]
H28年07月01日	看護師(病院・看護)	早川 美咲	期間延長 [H28.7.31まで]

[離職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年07月13日	看護師(病院・看護)	三上 はる奈	辞職
H28年07月31日	助教(医学系(臨床医学領域) / 医学部 附属病院専任担当)	齊藤 良明	辞職
H28年07月31日	助手(医学系(臨床医学領域) / 医学部 附属病院専任担当)	福士 謙	辞職



---

## 主要日誌

- 7月 1日 平成28年度第2回弘前大学起業家塾
- 2日 「むつサテライトキャンパス」開講式
- 〃 Red Bull ブレイクダンス世界大会国内予選
- 4日 第7回弘前大学出版会賞表彰式
- 〃 第461回役員会
- 7日 弘前大学卒業生による「日本語パートナーズ」報告会
- 8日 特別講演会「我が国の科学技術イノベーション政策について」
- 12日 企画戦略会議
- 〃 教育研究評議会
- 14日 北東北3大学3銀行による協定締結（地域TLO ネットビックスプラス）
- 〃 平成28年度第3回弘前大学起業家塾
- 15日 弘前大学基金贈呈式
- 19日 事務連絡会議
- 20日 青森地域COC推進協議会
- 21日 株式会社日本政策金融公庫との連携協定締結
- 25日 第462回役員会
- 27日 教育委員会
- 29日 平成28年度「科学者発見プロジェクト」テーマ賞表彰式
- 〃 第8回共同研究体験発表会を開催

---

## 学内規則

(平成28年7月15日制定等)

(制定)

### ○弘前大学における履修証明プログラムに関する規程

(一部改正)

### ○弘前大学学則

### ○弘前大学大学院学則

本学において、学校教育法第105条に規定する特別の課程として本学の学生以外の者を対象とした「履修証明プログラム」を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができることとするため、上記の規程等を制定等した。

(平成28年7月15日改正)

(一部改正)

### ○弘前大学組換えDNA実験安全管理規程

組換えDNA実験の実施に当たり、病原微生物を取り扱う際の健康診断、実験従事者の組換え体による汚染及び健康に変調を来した場合の措置等について規定し、部局の長が講ずる健康管理に係る事項について明確化し、実験従事者の健康管理の徹底を図るため、上記の規程を一部改正した。

弘前大学学報第148号

弘前大学総務部広報・国際課  
036-8560 弘前市文京町1  
電話 (0172) 36-2111